

# 地域の取り組みを紹介します！

## 事例1 小地域ネットワーク活動

### 蘭島ふれあいネットワーク 小樽市社協支援

高齢化が進む小樽市の中でも蘭島地区は特に高齢化率が高い地域であり、蘭島地区でのネットワーク活動は、希望する家庭に給食を届けるボランティアさんを中心に、市の福祉部、町内会、社協、消防、警察、民生委員、保健所などで構成されており、給食を届けるボランティアの協力により年2回実施する「ニーズ調査」をもとに、地区の高齢者の情報交換を行っています。

また見守り活動を兼ねた週1回の配食サービスをはじめ、ボランティアの研修(学習会や施設見学)やネットワーク構成員による地域懇談会を開催しています。



## 事例2 サロン活動

### いきいき遊びクラブ 士幌町社協支援

士幌町においては、サロンは高齢者や障がい者の生きがい・居場所づくりとして、地域の中で大きな役割を果たしています。町内にあるサロンは、それぞれボランティアが自主的に運営しており、社協では、これらのサロンに資金面での助成を行うだけでなく、各サロンを定期的に訪問し、ボランティアの悩みや相談を聞いたり、サロンのボランティアが一堂に会する場を設けています。

新しい取り組みとして、男性の参加者が少ないことを地域住民とともに考えた結果、男性が特に興味を示すマージャンを楽しむサロンを開設し、多くの男性がサロンに集うようになりました。参加費100円をいただき、必要物品については、町民からの寄付などにより準備し、運営されています。



サロン名	住所	開催場所	開催日	参加費	備
ふれあいサロン	H12	保健センター	毎月第1曜日	50円	○
2 西側いきいきサロン	H12	高齢者福祉館	毎月(不定)	無料	○
3 こころのサロン	H12	高齢者福祉館	毎月(不定)	無料	○
4 南側いきいきサロン	H13	高齢者福祉館	毎月(不定)	50円	○
5 日本酒のサロン	H13	サウナプラザ	毎月第1・3・5曜日	50円	○
6 中士幌ふれあいサロン	H15	中士幌公民館	毎月第3・5曜日	無料	○
7 いきいき遊びクラブ	H18	保健センター	毎月第1曜日	100円	○
8 上原いきいきサロン	H18	上原公民館	毎月第2・4	100円	○
9 高野いきいきサロン	H19	高野公民館	毎月第2・4曜日	100円	○
10 日本酒のサロン	H19	日本酒交流センター	毎月第2・4曜日	100円	○

～住み慣れた地域で安心した暮らし～

# はじめてみませんか 小地域ネットワーク活動・サロン活動

小地域ネットワーク活動やサロン活動は、町内会などの小さな地域単位において「食事会・茶話会」といった“集う”こと、また「声かけ訪問」といった“見守る”活動などから、自然な“地域のつながり”の構築と、隠れている地域の困り事を発見する活動です。

**皆さんの地域でこんなことが起きていませんか？**

- ・高齢者の孤立や引きこもり
- ・悪質商法などの消費者被害…
- ・高齢者や児童への虐待…

**気軽にちょっとしたお願い、できますか？**

- ・電球の取替え…
- ・買い物…
- ・子守り…
- ・ゴミ出し…

**こんな方いらっしゃいませんか？**

- ・介護に悩んでいる高齢者…
- ・認知症ケアに悩んでいる娘・息子さん…
- ・子育てに不安なお母さん…
- ・遊び友達がない障がい児…
- ・話相手がない高齢者や障がい者…

**今“地域のつながり”があらためて注目されています**

- ・近年いわれはじめた“近所づきあいの希薄化”
- ・核家族化・少子高齢化などにより、家族構成も変化しています
- ・何気ない地域での暮らし 実は“近所づきあい”によるところも多いにあったのでは。
- ・例えば、ちょっとしたお願いができること、ちょっとした相談ができること。
- ・ご近所との顔なじみの関係があることにより、様々な不安を解消してくれることがあります。

発行日／平成20年6月  
 発行／社会福祉法人 北海道社会福祉協議会  
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地  
 北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)3階  
 TEL011-241-3976(代) FAX011-251-3971



この冊子は共同募金の配分金により作成されました

**“地域の繋がり”は突然、生まれるものではありません  
 社会福祉協議会は、“地域のつながり”づくりを支援します**

# 北海道における 小地域ネットワーク活動 サロン活動状況を紹介します。



## ー平成19年12月の活動調査からー

小地域ネットワーク活動については、約72%の市町村において実施されています。

主な活動としては、「声かけ訪問・安否確認」が9割近い実績としてありますが、北海道の地域特性ともいえる「除排雪」が約54%にものぼり、まさしく“ちょっとした支えや見守り”が多くの地域において取り組まれています。

サロン活動の実施に関しては、約37%の社協において「実施している」と回答していますが、小地域ネットワーク活動の一環としての食事会の実施も約59%にのぼり、“集う”という観点からみれば、より多くの地域において、活動がなされています。

また、サロンの数は、全体では673箇所、その内「高齢者サロン」が約77%、主として「食事会」や「茶話会」、また「健康づくり」といった介護予防の活動も多くみられました。

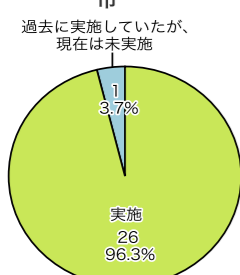
小地域ネットワーク活動やサロン活動は、地域住民の合意形成からはじまるものであり、平成19年12月の調査では、「地域とのつながりができた」「仲間づくりの場となった」という多くの回答があり、より多くの地域においてこのような小地域福祉活動が展開されるよう、今後も積極的に取り組んでいく予定です。

## 実態調査ダイジェスト 北海道社会福祉協議会調べ

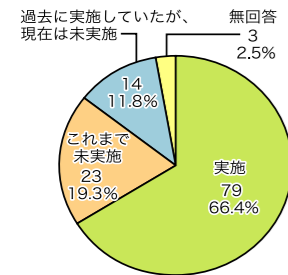
### 小地域ネットワーク活動



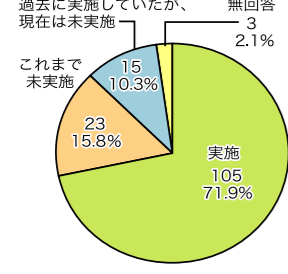
【活動数】



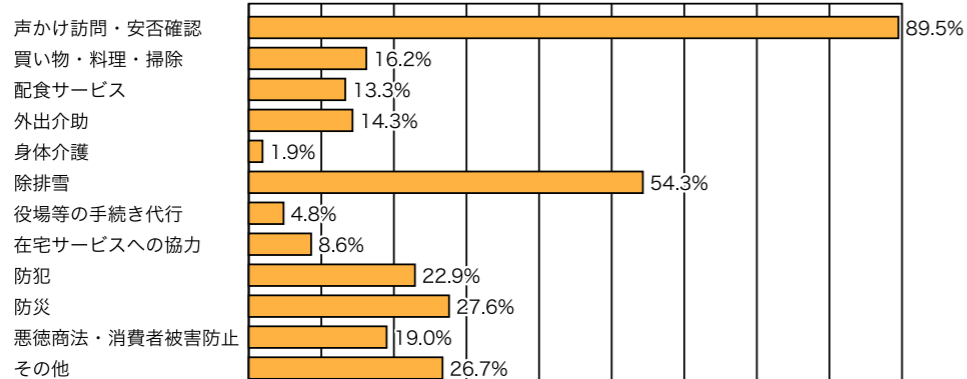
【活動数】



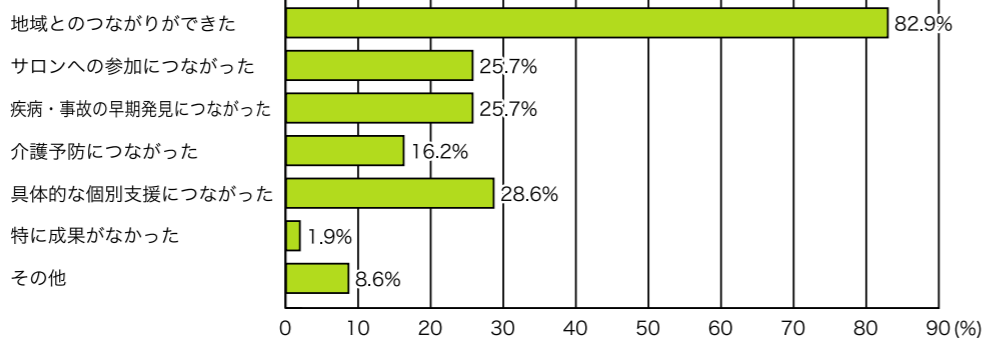
【活動数】



【活動内容】



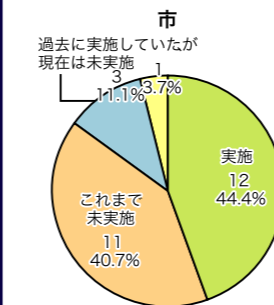
【成果】



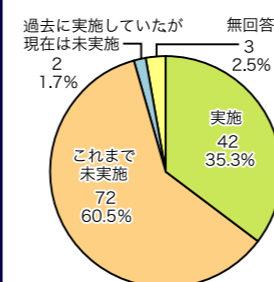
### サロン活動



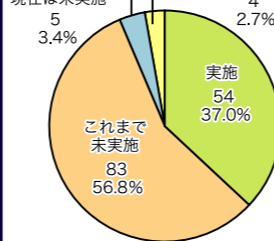
【活動数】



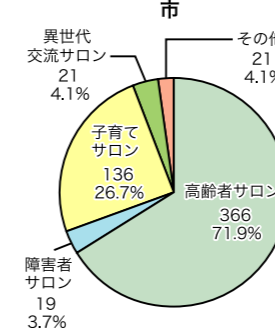
【活動数】



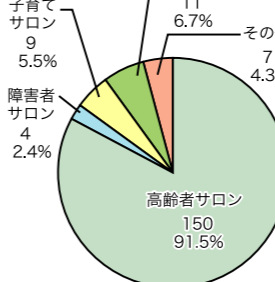
【活動数】



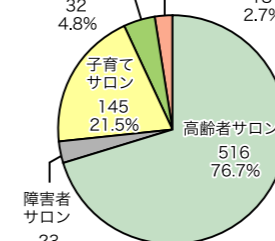
【対象別サロン数】



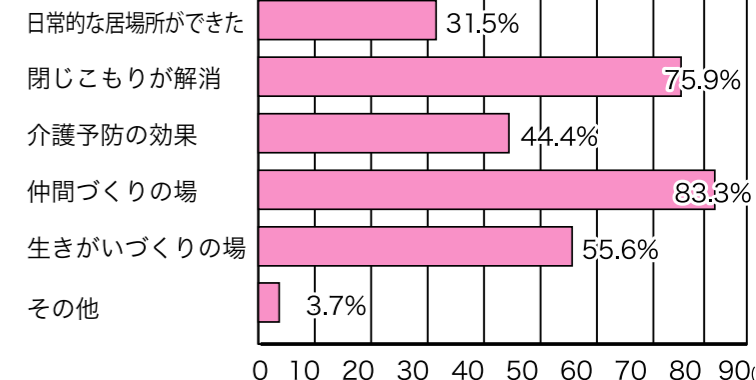
【対象別サロン数】



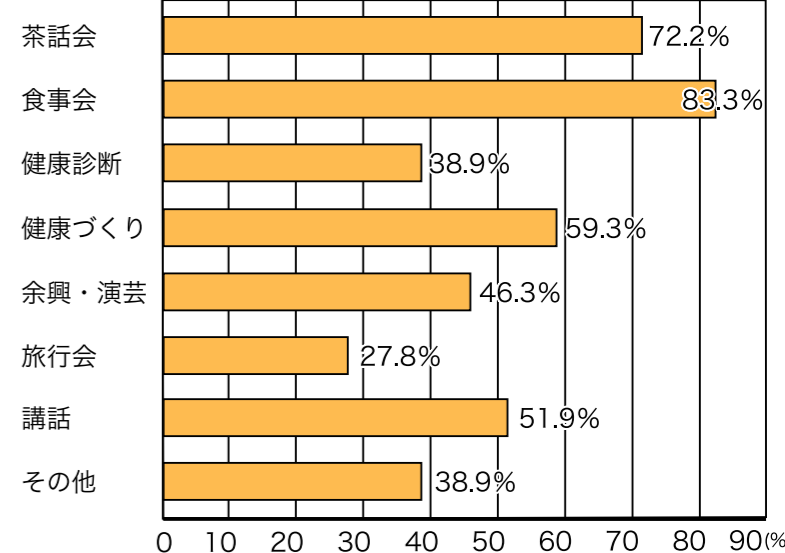
【対象別サロン数】



【成果】



【実施している内容】



●社会福祉協議会は、住民に身近な小地域における福祉活動の充実を目指し、これらの小地域ネットワーク活動やサロン活動を、第一歩とした「安心・安全・福祉のまちづくり」に取り組んでいます。

#### Q1 安心・安全・福祉のまちづくりとはどんな活動ですか？

地域における生活課題（消費者被害、高齢者の孤立、災害時の避難支援等）を解決するために、皆さんのまちの社会福祉協議会が推進主体となって、地域の皆さんや様々な関係機関と協働しながら、地域のネットワーク（仕組み）づくりを目指す活動です。

#### Q2 なぜ、今「安心・安全・福祉のまちづくり」を社会福祉協議会が推進するのですか？

「安心して安全に、できる限り住み慣れた地域や家庭で暮らしたい」という地域の皆さんの思いを実現するためには、地域の皆さんとともに、このような新しい地域における生活課題（消費者被害、高齢者の孤立、災害時の避難支援等）に取り組んでいくことが大事です。社会福祉協議会は従来から地域住民や関係機関と協働することによって、小地域ネットワーク活動やサロン活動を推進し、「福祉のまちづくり」に取り組んできました。このような「福祉のまちづくり」のノウハウや経験を持つ社会福祉協議会が推進していくことが、効果的であると考えています。

# はじめよう！小地域ネットワーク活動・サロン活動 地域で取り組む際の流れ



## 第1段階

地域の実態把握・体制整備を行きましょう。

- 1) 社会福祉協議会などの活動支援関係者とのつながりを持ちましょう。
- 2) 支援を必要としている人がどの程度いるのかなど、地域の様々な状況を把握しましょう。
- 3) 地域における専門機関など社会福祉資源を確認しておきましょう。
- 4) 活動に協力いただける方や、中心的な担い手（キーパーソン）を探しましょう。



## 第2段階

地域住民への活動の普及啓発を進めましょう。

- 1) 社会福祉協議会等が作成しているパンフレットなどを積極的に活用しましょう。
- 2) 活動概要を周知する説明会を町内会単位などで実施しましょう。
- 3) 支援者・参加者募集のための広報などを行きましょう。



## 第3段階

計画を立て、活動を展開しましょう。

- 1) 活動内容や計画を、地域の皆さんで決めましょう。
- 2) 1人1人の事情に配慮しながら活動を展開しましょう。



## 第4段階

定期的に活動を振り返りましょう。

- 1) 同じような活動をしている、他の団体などとの情報交換や交流の機会を持ちましょう。
- 2) 定期的に活動を振り返る仕組みを作りましょう。



## 期待される効果

孤立感の解消

閉じこもりの予防

社会参加の促進

健康の維持

# 活動推進にあたってのポイント



## 小地域ネットワーク活動

【見守る・訪問する】

- 見守り・訪問などの支援の必要な人については、近隣住民の情報や意見をもとに決めましょう。
- ネットワークは、町内会をはじめ、民生委員、ボランティア等、特に決まりはありません。同じ思いをもった人ができたら、まずは、身近な社会福祉協議会などの関係機関に相談しましょう。

### 第1段階 実態把握体制整備

- 見守り・訪問などの活動内容について、地域全体で共有しましょう。
- 個人情報の取り扱いには、特に注意をしながら行いましょう。

### 第2段階 地域への普及・啓発

- 直接、訪問や電話による安否確認の他に、「そっと見守る」といったことも大切です。様々な活動があることの共通認識を持ちましょう。
- 見守り、声かけ訪問をはじめ、家事、介護の援助、外出支援などといった様々な活動内容から地域で必要とされる取り組みを行いましょう。

### 第3段階 活動の展開

- 支援対象者（見守りされる側）の気持ちも十分に理解するように努めましょう。
- 小地域ネットワーク活動の支援者や協力者との交流や、同様な活動を行っているネットワークとの情報交換を行いましょう。

### 第4段階 定期的な振り返り



## サロン活動

【集う】

- 備品の貸し出しや参加者への周知といったときのために、関係機関・団体（民生委員、児童委員協議会、老人クラブなど）との関係も作りましょう。
- レクリエーションや健康チェックなどの専門的な活動内容の提供のために、専門機関（デイサービスセンターや保健師など）への関係も作りましょう。

- サロン活動の内容について、地域全体で共有しましょう。
- 人が集うことで生まれる効果を、参加者と運営者ともに確認し合いましょう。

- 活動の拠点は、町内会館などの他、社協の事務局がある建物、自宅の利用なども検討していきましょう。
- 参加者にも、サロン活動において役割を見い出せるような工夫をしましょう。

- サロンの参加者に対し、簡単なアンケートを行うなど、問題や課題が明らかになるような工夫を検討しましょう。
- 他のサロン活動者との交流の場を持ちましょう。